

安心救急ネット京都は、AEDの設置促進と応急手当の普及啓発を推進する京都市内の事業所ネットワークです。



今年も梅雨の時期となりました。これから夏にかけて、大雨や台風、水辺のレジャーなど、水に関連する事故に注意が必要です。

今回は、海・湖や川へ出かける際に、水の事故から命を守るポイントについてお伝えします。

出典：政府広報オンライン (<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201608/1.html#secondSection>)

水の事故から命を守る7つのポイント

1. 「立入禁止」の場所には近づかない

海・湖や川など水辺には、パッと見ただけでは分からない危険が潜んでいます。管理者や地元の方などによって柵が設置されていたり、「立入禁止」などの看板がある場所には、絶対に近づかないようにしましょう。

3. 単独行動を避ける

一人で行動した場合、事故に遭っても周囲の発見が遅れて、深刻な事態となりかねません。複数人での行動を心掛けましょう。

また、出掛ける際に、家族や関係者に行き先や帰宅時間を伝えておけば、万一のときにも異常に気付くきっかけとなり、速やかな救助につながります。

5. お酒を飲んだら海や川には入らない

お酒（アルコール）が体内に入ると、判断力や注意力、集中力、さらには運動能力も低下するため、自身が危険に遭遇するリスクが高まり、大変危険です。

海上保安庁によると飲酒をして海水浴中に事故に遭った人の死亡率は、飲酒をしていない人の約2倍も高くなっています。海に限らず、飲酒後の遊泳は大変危険ですので、お酒を飲んだら泳がないようにしましょう。また、こどもから目を離すことにもつながりかねません。

7. 連絡手段の確保

万一、水の事故が起きたときに、救助機関に速やかに通報できるよう、携帯電話などの連絡手段を確保しておきましょう。水没して使えないといった事態を防ぐため、ストラップ付き防水パックの利用をお勧めします。

救助が必要なときは、「119番（消防）」又は「110番（警察）」に連絡しましょう。

また、海上における事故の場合は、海上保安庁の緊急通報用電話番号「118番」に連絡してください。海の事故で救助を求める際は、携帯電話のGPS機能を「ON」にした上で遭難者自身が「118番」に直接通報することで海上保安庁が正確な位置を受信することができ、迅速な救助につながります。なお、海上保安庁では、聴覚や発話に障害を持つかたを対象に、スマートフォンなどを使用した入力操作により通報が可能となる「NET118」というサービスも運用しています。

2. 体調が悪いときは無理をしない

体調が悪いときに水に入るのは危険です。自身の体調を把握して、疲労や睡眠不足を感じる場合などは、決して無理をしないようにしましょう。

4. こどもから目を離さない

こどもは大人と比べて危険を察知する力が弱いものです。小さな波にも足をすくわれ、沖に流されたり、溺れたりすることもあります。

こどもの体に合ったライフジャケットを着用させるとともに、常にこどもから目を離さないようにしましょう。

6. ライフジャケットの常時着用

水の事故で生死を分ける重要な要素となるのが、ライフジャケットの着用です。これを徹底するだけで、重大事故発生の確率を大きく下げることができます。

水中に落ちたときに、ライフジャケットが脱げてしまったり、膨張式のライフジャケットが膨らまなかったり、といったことがないよう、体のサイズに合ったライフジャケットを適切に着用するとともに、着用時の保守・点検を心掛けましょう。



海での「水の事故」を防ぐポイント

海・湖や川では、必ずしも水に入ることを目的としない楽しみ方もありますが、それでも毎年、多くの水の事故が発生しています。特にこどもは河川での事故が多いため、絶対に一人では遊ばせないようにしましょう。海、川での事故を避けるため前頁の7つのポイントに加え、海、川それぞれ以下のポイントについても気を配りましょう。

1. 管理された海水浴場で泳ぐ

一口に「海」といっても、遠浅の海や急に深くなった潮の流れが変わる海、岩だらけの海など、その環境は地域によって異なります。一見しただけでは危険性が判断できないので、ライフセーバーや監視員などが常にいる海水浴場など、管理された安全な場所で楽しみ、「立入禁止」「遊泳禁止」などと表示がある場所には絶対に近づかないようにしましょう。

2. 荒れている海には決して近づかない

同じ海でも、天候によって危険度は大きく変化します。波が高く、荒れている海は非常に危険ですので、**事前に天気予報をチェックして、海が荒れることが予想される場合は、予定を変更し、決して海に近づかないようにしましょう。**

3. 海にいる危険な生物に注意

海には、様々な生物がいます。なかにはクラゲやエイなど、危険な生物も少なくありません。これらに刺されたりした場合はすぐに海から出て、受傷部分を冷やすなどの対処をしましょう。痛みが引かない、炎症がひどいといったときは、医療機関を受診しましょう。



ソーホー

119映像通報システム

令和6年7月1日（月）午前8時30分運用開始！

119映像通報システムとは、音声による119番通報に映像を加えることで、より正確な情報をリアルタイムに伝えることができるシステムです。

映像を確認することにより、事故現場の正確な状況を把握することや、災害発生場所を早期に特定することなどに役立てます。また、緊急性の高い救急事案では、通報者に映像を見せながら応急手当のアドバイスを行うことができます。

詳しくは、京都市消防局ホームページを御確認ください。

AEDは点検が必要です！

- ・インジケーターの確認
- ・消耗品の使用期限の確認と交換

をお願いします。

川での「水の事故」を防ぐポイント

1. 川の地形を知り、危険な場所には近づかない

川の状態や地形は千差万別で、曲がり方や傾斜・川幅・深さ・岩の突出などによって、流れの速さや危険度が異なります。

川には、「危険を示す掲示板」が設置されている場合があります。そうした掲示板がある場所では決して遊ばないようにしましょう。

2. 天気予報などをチェックして、急な増水に備える

安全と思われる場所でも、上流（水が流れてくる方）での豪雨による急な増水のために水難につながる危険があります。

事前に天気予報をチェックするのはもちろんですが、**上流を含めた天候には常に気を配りながら**、国土交通省が発表する「川の防災情報」なども参考にしましょう。また、上流のダムの放流により増水する場合は、警報で注意喚起がされます。ダム管理者からの情報に留意しましょう。

特に中州は、増水すると逃げ道がなくなり、取り残されてしまう危険があります。河原に草が生えていない所があれば、増水時に水が流れていることの証なので、こうした場所では特に注意が必要です。また、川幅が狭い場所は、増水すると短時間のうちに水位が上昇し、川の流れが速くなるおそれがあります。

次のような変化は、川の水が急に増えるサインです。すぐに避難しましょう。

- ・上流の空に黒い雲が見えたとき。
- ・雷が聞こえたとき。
- ・雨が降り始めたとき。
- ・落ち葉や流木、ゴミが流れてきたとき。
- ・水が急に冷たく感じたとき。
- ・水位が急に低くなったとき。



救急車を呼ぶかどうか迷ったら

救急の電話相談窓口「救急安心センターきょうと（#7119）」に24時間365日相談できます。

固定・携帯電話から **#7119**
ダイヤル回線、IP電話などからは

0570-00-7119

AEDの設置促進及び京都市AEDマップへの掲載並びに応急手当普及員による自主的な救命講習の開催に御協力をお願いします。

京都市AEDマップへの掲載及び掲載情報の変更等は、京都市消防局教育管理課（TEL 075-682-0131）までご連絡ください。